当院人間ドックにおける Master 2 階段法実施状況

◎渡邉 由貴[1)]、渡邉 清子[1)]、松野 枝美[1)]、阿部 周一[1)]
山形県立中央病院[1)]

【はじめに】

当院では従来より、人間ドックで Master 2 階段法（以下 Master 法）を実施し虚血性心疾患や不整脈等の早期発見に努めてきた。今回実施状況を調査したので報告する。

【対象】

以下の期間における当院人間ドック Master 法総受診者。
2008 年度 1476 人（男性 1151 人、女性 325 人）。
2013 年度 1450 人（男性 1087 人、女性 363 人）。
2018 年度 1376 人（男性 1003 人、女性 373 人）。

【検討項目】

① 負荷判定で疑陽性以上の割合およびその所見。
② 負荷を途中で中止（以下負荷中止）した割合および中止理由。

【結果】

① 負荷判定疑陽性以上の割合は 2008 年度男性 12.2%、女性 27.4%。2013 年度男性 9.7%、女性 18.8%。2018 年度男性 8.3%、女性 9.2%であった。所見ではいずれの期間でも男女ともに ST 低下によるものが 70%以上を占めており、その他の所見では陰性 T 波や平低 T 波などがあった。
② 負荷中止した割合は 2008 年度 0.4%、2013 年度 1.4%、2018 年度 1.2%であった。中止理由はいずれの期間においても足腰の不調によるものが最も多かった。

【考察】

負荷判定が疑陽性以上の割合は減少しており、特に女性で著減していたが、2015 年度から判定医師が変わったためではないかと思われる。

人間ドック総受診者数は微減傾向にあるものの、男女比に変化はなかった。年代別では 70 代の割合が増加しており、負荷中止者も増加していることから受診者の年代が影響していると推測される。

Master 法は段の高さや階段昇降の速度を調節できず危険を伴うため、転倒の恐れや本人の申し出があればすぐに中止している。また疑陽性以上の割合は減っているが、虚血による ST 低下を示す危険も潜んでいることを念頭に置いて、検査を実施していかなければならない。

連絡先 023-685-2626（内線 1301）